

## ◆ 中村保さんに 「梅棹忠夫・山と探検文学賞」

著作『最後の辺境 チベットのアルプス』で  
21年間のヒマラヤ山脈東側踏査の**集大成**



梅棹賞を受賞した著作「最後の辺境 チベットのアルプス」を手に喜びを語る中村さん。

民俗学者の梅棹忠夫さん（1920～2010年）にちなんで「第2回梅棹忠夫・山と探検文学賞」（同賞委員会主催）の受賞作に、中村保さん（78）＝東京都＝の『最後の辺境 チベットのアルプス』（東京新聞刊）が選ばれた。

中村さんは1934年（昭和9）年東京生まれ。一橋大学山岳部時代には、北アルプスの岩壁で先鋭的な登山に熱中した。大手重工業メーカーに就職後も南米アンデス山脈の登山を実現。結婚後はブランド輸出ビジネスに打ち込み、30年近く山から遠ざかった。

香港への赴任をきっかけに、90年以降、政治的な理由で未踏地域だった東チベットや四川、雲南など、ヒマラヤ山脈東側の踏査を重ねてきた。本書は、21年間にわたって30回以

上「最後の辺境」を訪れてきた踏査行の集大成だ。

2005年までに「ヒマラヤの東」「深い浸食の国」「チベットのアルプス」（いずれも山と溪谷社刊）の3部作を出版。「最後の辺境」はその「完結編」という位置付けで、05年以降の7年間に、「3部作以上に広範で奥行きのある踏査や研究、情報発信を実践してきた」と中村さん。その成果を内外の雑誌で紹介した功績で、04年に秩父宮記念山岳賞、08年には日本人で初めて英国王立地理学協会の「バスク・メダル」を受賞した。

同書では、いまなお未踏の6000メートル峰が270座以上存在するヒマラヤの東の未踏峰群、チベットの人々の暮らし、「西部大開発」で進行するチベットの発展と変貌を紹介している。

中村さんは梅棹賞の受賞に「尊敬する梅棹さんの名前を冠した賞をいただけるのは光栄で、これからの励みになる」と話している。

同賞は徹底した合理主義を貫き、世界各地で学術調査をして独自の文明論を展開した梅棹さんを記念して、10年に創設された。今回は過去2年

以内に出版された30冊を事務局が候補に選定。その中から「フィールドワークの重要性、地図の正確さ」などが評価され、本書が受賞作品に選ばれた。

中村さんは来年夏までに、今回高い評価を得た山岳地図と「チベットのアルプス」の美しい写真を見開きで編集した著作を出版する予定だ。